

下竹荘地域 文化拠点事業「150年分のありがとう～そして未来へ」

地域に於ける文化拠点を中核とした文化伝承の推進

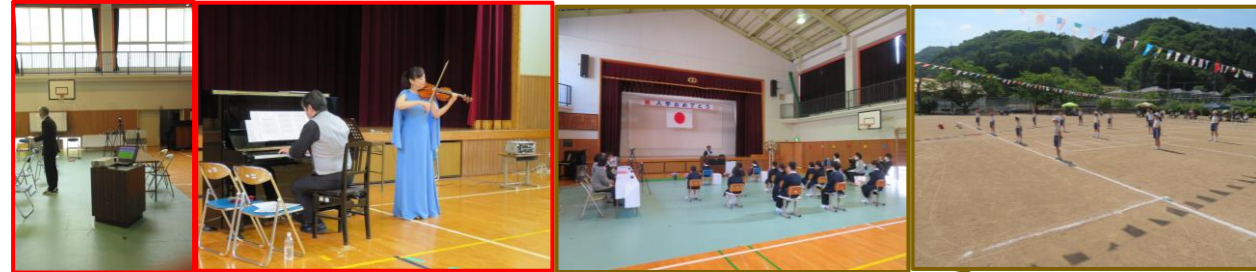
地域の活性化← [文化資源の保存と活用・文化伝承者の育成・文化情報の発信] →過疎化の阻止

○文化事業運営拠点「下竹荘小学校」

○文化事業広報拠点「学校運営協議会」

①地域への学校行事 online 配信 ②地域への音楽鑑賞教室 地域への学校行事広報活動

入学式 運動会 学習発表会 卒業式



文化拠点事業「150年分のありがとう～そして未来へ」実行委員会

○地域の文化活動①川合神社の山車奉納

②地域老人会グラウンドゴルフ大会

③下竹地区文化祭

④学校行事地域開放

を機能的に結びつけることによって、令和7年3月31日の小学校閉校後に地域が衰退していくのを事前に防ぎ、新たな文化伝承組織を立ち上げて、閉校後の下竹荘地域を後々の世代に継承していく過程を計画している。

○「学校運営協議会」に於いて閉校後の地域隆盛を目指して議論し、子どもたちがいなくなっても、伝承文化や地域交流の担い手(文化継承者)を育成できる組織づくりを図っている。

○閉校後の土地活用を含めて行政に働きかけ、子どもたちの声が地域から消えてしまわない手立ての具体を模索している。

○文化伝承拠点「川合神社」

文化継承事業「山車奉納」

○文化事業交流拠点「下竹荘公民館」

文化交流事業「下竹荘文化祭」 児童作品出品

地域老人会グラウンドゴルフ大会



- ①県道 31 号線と 57 号線との接合点
- ②小学校、中学校、公民館、郵便局の集約地
- ③移動手段が自家用車か 1 日数回運行のバス

利便性

- ①河川と林野に囲まれた盆地状の土地
- ②環境汚染の要因がほぼ存在しない
- ③親和的で献身的な地域性

地域らしさ

下竹荘地域

住みやすい地域として
将来へ接続

環境

経済

- ①企業の運営実績がない土地柄
- ②働き先のある大規模隣接自治体まで遠距離
- ③地元小売店舗が数店しかない